

2020年5月発行

茨木御堂 第271号



真宗大谷派



茨木別院

(輪番 高木 文善)

〒567-0817 茨木市別院町3-31
TEL (072) 622-2903
FAX (072) 625-9445

ひと
なに
が
何よりも
執着せんとするものが
自己である

ほんの二カ月程前までは、自分のことではなく他人事のように思っていました。新型コロナウイルスがここまです猛威を振るい感染者を拡大している現在、何とも愚かでありました。今年の二月までは、例年通り九日講も、開基教如上人御命日に実施している同朋会も、親鸞聖人御命日の婦人会例会もつつがなく実施できました。しかし三月からはすべての行事を中止にせざるをえなくなりました。

そんな事情にともない、三月十七日、十八日勤修の春の彼岸会も内勤め、五月二十八日、二十九日勤修予定の永代経も内勤めとさせて頂いた。参詣を予定して下さっていた方々には誠に申し訳なく、別院といたしましては痛恨の極みであります。更に、大阪府知事によります緊急事態宣言の自粛要請に協力すべく、お月参りまでも自粛させて頂いた。ことに踏み切りましたことにつき、ご門徒の皆様には大変なご迷惑をおかけすることを心からお詫びを申し上げます。

新型コロナウイルス騒ぎで、世相の様子を見聞きしていると、
①マスクの買占め、日用品の買い溜め、②特に行政に対する対応の遅れや休業補償や将来への不安についての怒り、テレワークや学校の休業による家庭での混乱やいざこざに対する主婦の腹立ち、③どうしてこんなことになるのや、もつと前から気を付けていれば良かったのという愚痴。こんなことがウイルスの万延と同じように全国津々浦々に広がっているようです。仏法の教えでは①を貪欲(とんよく)、②を瞋恚(しんに)、③を愚痴(ぐち)と示されています。これを「三毒の煩惱」と言います。

このような毒を起こす根底に一体何があるのでしょうか。人は自分の都合をとっても大事にします。自分の都合ほど大事なものはないので、もつと厄介なことはその都合(自己)中心的な在り方)が自分にとって正しいものと錯覚していることにあります。これが「執着」であります。

南無阿弥陀仏はあなたをその執着から開放して下さいます。南無阿弥陀仏は、「執着」してやまない私(執着する自己、自分こそが正しいと思う錯覚)に気づかせて下さいます。早くコロナ騒ぎが治まってほしいと南無阿弥陀仏を称えてもコロナは収まるものではありません。執着に翻弄(ほんろう)されているうちは、コロナにも翻弄されます。自己に対する執着に目が醒めたら、コロナへの対応も随分違ったものになるに違いありません。南無阿弥陀仏の教えは、自己の執着を破る(目覚めさせる)ものです。それには南無阿弥陀仏のいわれを聞く(仏さまの教えをしつかりと聞き開く)こと以外にはありません。

コロナウイルスに感染しないようにあらゆる注意対策をとるのは個々がしなければならぬことはもちろんであります。しかし、この不安と恐怖を浴びせられたことを大切なご縁として、己の都合ばかりを主張するが故に、コロナに翻弄される自分の正体(執着するこの私)を、仏さまの教えによって顕かにしていただくのなら、コロナがまたとないご縁であったとうけとめられるのではないでしょうか。やはり南無阿弥陀仏です。南無阿弥陀仏。南無阿弥陀仏。

南無阿弥陀仏(輪番)

茨木別院関連ホームページ

茨木別院 ➔ ibarakibetsuin.or.jp

いばらき大谷学園 ➔ ibarakibetsuin.or.jp/kids/

真宗教団連合ホームページ

<http://www.shin.gr.jp/>

真宗教団連合

検索

茨木別院 行事ご案内

5月

●永代経法要

日 時 28日(木) 午後1時半より
29日(金)
会 場 別院本堂

*内勤めにより法話中止

門徒会総会について

例年5月永代経法要に合わせて開催していましたが、永代経法要内勤めに伴い総会の開催を見送らせていただきます。

6月

●教如上人ご命日・同朋会(どうぼうかい)

日 時 5日(金) 午後1時半より
会 場 別院会館
講 師 加藤 恵氏

●みほとけの歌の会

日 時 8日(月) 午後1時半より
会 場 別院会館

●親鸞聖人ご命日・婦人会例会

日 時 28日(日) 午後1時半より
会 場 別院会館
講 師 茨木別院輪番

永代経法要

5月28日(木)・29日(金) 午後1時半より

読経のみ内勤めにいたします。法話は中止させていただきます。

今年度本山九日講について

5月・7月・8月・9月の本山九日講は休講いたします。

6月の本山九日講・茨木別院門徒会合同研修旅行も中止いたします。

*本山九日講の再開については役員会で協議後、追ってお知らせいたします。

「緊急事態宣言」に対する茨木別院の対応について

●「緊急事態宣言」期間中

原則、月忌参り・法事・納骨についてお休み又は延期させていただきます。

定例行事(同朋会、みほとけの歌の会、婦人会)は中止させていただきます。

事務所は通常通り(午前9時～午後5時)開けておりますが、来院はなるべく避けていただき電話での対応を基本とさせていただきます。

なお、政府および大阪府の状況により対応を延長することもあります。

ご理解、ご協力よろしくお願いいたします。



木々の若葉が爽やかな季節になりました。4月には新入園児 51 名を迎えて、新しい年度が始まりましたが…、ご承知のとおり、新型コロナウイルスの影響で、すぐ1号認定のお友だちは登園もままならず、本当に「異例づくし」の年度初めとなってしまいました。しかし、このような状態の中ではありますが、職員一同、「子どもたちの最善の利益のために」変わることなく保育に取り組んでまいりますので、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



11日(月) 誕生会(4・5月合同)
12日(火)・14日(木) 内科検診
22日(金) 交通安全指導
26日(火) 歯科検診



1日(月)・2日(火) ブラッシング指導
2日(火) 年長組潮干狩り
8日(月) 誕生会
13日(土) 保育参観
23日(火) プール開き
27日(土)・28日(日) 年長組お泊り保育
※上記の行事予定は変更される場合があります
ご了承ください。

お知らせ

いばらき大谷学園では、例年これからの時期に下記の事業を開催しておりますが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当面、中止させていただいております。再開の際にはぜひご利用ください。

- ・1号児対象の体験保育
- ・未就園児対象の園庭開放、誕生会
及び、あそぼう会

尚、お電話での子育て相談は受け付けております。(月～金 9:00～17:00)



子どもたちに人気の献立紹介

切干大根の梅和え



＜材料＞(大人2人分)

切干大根 20g
ひじき 5g
人参 1/2本
きゅうり 1本
梅肉 約大さじ1弱
マヨネーズ 約大さじ2

＜作り方＞

- ①梅肉とマヨネーズをボウルに混ぜておく
- ②切干大根を水で戻し、押しあらいして搾る。ざく切りにしてから5分ほどゆでる。
- ③ひじきを水で押しあらいし、5分ゆでる。
- ④人参を千切りにし、2～3分ゆでる。
- ⑤きゅうりを輪切りにし、塩もみする。
- ⑥ ②～⑤をキッチンペーパーなどで絞り、①と和える

* さっぱりとして意外と人気です！ 大人2人分ですが、子どもなら4人分になります。



園長の一言

●「意」の保育（前号からのつづき）

現在子育て中の親御さんたちは、ほとんど多くがいわゆる「指示待ち人間」時代に生まれ育たれた方ですので無理もないかもしれませんが、そうでなかった時代の子どもたちと比較することができないという不幸を背負っておられると思えるのですがいかがですか。つまり今の子どもの育ちのおかしさ（「意欲」に欠ける、「主体性」に欠ける、「積極性」に欠ける、「やる気」に欠ける）が見えないという不幸を背負っておられるということでもあります。

「意」は目にも見えず、姿かたちのないものです。なのに前号では、なぜ「意」が構造として実体的に存在するかのような表現ができたのかと疑問を持たれる向きもあるうかと思えます。

それは私が長年子どもの育つ様子をじっくりと観察し、子どもが変化していく（育つていく）ことを見てきたからであります。「育ち」とは知識や技能が身についたことではなくて、主体性・意欲・やる気・積極性が育つことであります。なぜなら今後長い人生の中でこの「意」がないと学力も身につかず、生きていく意欲そのものも危うくなるからです。皆さんが最も気にしておられる学力が向上するということも、この「意」なるものが根底をなすのであります。

少し実例を紹介しましょう。ものづくりというものは、それに興味をいだいたものにとってはすこぶるおもしろいものです。ものづくりは保育現場では作品製作と言います。例えば遠足に行った時の印象を製作にしようと保育者が意図したとしまし

う。「今日は動物園に居た動物を作ってみましょう」と導入するまでは許せますが、「動物園にいたゾウをみんなで作りましょう」と言った瞬間に、もう制約をはめたことになります。そうではなくて、いろんな材料（例えば、木切れ・木の葉・粘土・絵具・ペットボトル・キャップなどの小物・針金・ボンド・りぼん等々、できる限りたくさんもの）を準備して、「これで好きな動物を作ってみましょう」といえば、そのふんだんにある材料を見て、子どもたちはまずワクワクするでしょう。作ろうとする動物にワクワクするのでなくて、目の前にあるいろんなもの（材料）に強い興味を抱くのです。その材料は、保育者が作るものをあらかじめ想定して意図的に準備をするのではなく、子どもにとっておもしろいものほのほいのです。先ず模索が始まります。つぎに試行錯誤が始まります。そして製作にとりかかるといういろんな葛藤や創意工夫がなされることになります。見る見るうちに熱中してしまします。もうそこまできると後はほっておいても製作はどんどん進んで、のめり込んでいきます。何故そうなるのでしょうか？それは自分で選んだ材料で自分の好きな動物が作れるからです。こどもの本領（本来の持ち物）が発揮できるからです。子どもたちに自由を保障し好きなことをさせてあげるといふことはこういうことであると思えます。このような日常の積み重ねが、意欲・やる気を徐々に養い主体性・積極性へと醸成されていくのです。これは自由保育と言われるもののほんの一端です。このプロセスを私は「子どもが育つていく」と言います。つまり「育ち」ということであります。

園長（高本文善）

六月法語カレンダーのことば

東 真行

自分探し、という言葉があります。少し懐かしい言葉で、今となつては新鮮味を失つた言葉のように見えます。しかし、あらためて考えてみると、とても不思議な言葉でもあります。その不思議さは、自分を「探す」という語感にあります。今さら探すまでもなく、私はもはや現にここにいます。つまり、私たちは自分というものをすでに獲得し、その自分を生きているのです。確かにそのはずなのです。

それにも関わらず、自分探しという言葉には、ひとに訴える実感がこもっているようです。私たちが感じている何らかの思いをその言葉のうえに見ることができからでしょう。私たちはすでに自分があるのに、なぜ自分を探し求めるのか、もう一度考えてみたいと思います。私たちが自分を探すのは大抵の場合、今すでに得ている自分に十分に満足できていないからではないか。私たちは不満を抱えています。現に得ている自分では癒すことのできない渴きのなかにたえず、潤うことのない喉が飲むものをつねに求めるように、不安や孤独、虚しさに絶え間なく駆り立てられています。そして、その渴きを一時的に癒そうとして、心から求めているものを自分であると思ひ誤つてしまふ。これが執着です。自分という闇のふたを開けると、どんなに黒いものが飛び出してくるか自分でもわからないほどです。標記の言葉は、この自己への執着こそ、私というものの根幹に据えられる最も深い執われであると語っています。私たちは「これが私である」と考えて、色々なものを飲み込んでいきます。自らの身体をはじめとして、金銭や家屋などの物であったり、人間関係であったり、仕事などの能力や名誉であったり、「これが私である」と思ひ私を喜ばせるものであればいい。しかし、これらの執着されるものはいずれも壊れていきます。私たちはそもそも生まれながらにして、私たちに属するはずの身体から老い、病み命を終えることを宣告されています。

さらに引き算で考えてみましょう。金銭を失ひ、家屋から追われ、人間関係に悩み、能力や名誉と縁が切れてしまふ時、私は私でなくなるのでしょうか。そうではありません。裏返ししていえば、執着する自己が執われであると気づき、確かな自己との見極めがつく時、私たちはやと胸を撫でおろすことができるのです。

自分を探し求める渴きから逃げ切ることは可能でしょうか。そう思ふ私たちは遂にどこまでも逃げていきます。しかし、逃げゆく私たちから自己が引き剥がされることはありません。自己は私たちをどこまでも追いかけてきます。実に私たちはそれほどまでに真実の自己を探し求めているのです。つまるところ、自己を探し求める、この心から私たちが自由になる日は来ません。それゆえにまた、執われの自己ではなく、真実の自己を探し求めることこそが、私たちにとっての果てしない一大事なのです。

合祀納骨案内

茨木別院墓地内にて合祀墓が整備されています。たくさんの方にご利用いただいております。合祀納骨をお考えの方は一度ご見学下さい。

個別納骨
●納骨料「一体」
三十二万五千円

・冥加金 二十万円
・刻銘料 二万五千円
・永代管理費 十万円

合同納骨
●納骨料「一体」
五万円

*ご利用は真宗大谷派に所属する寺院・僧侶・門徒に限らせていただきます。

須弥壇納骨のご案内

本堂須弥壇(阿弥陀様)の下に納骨壇を設けており、ご納骨することができます。

●冥加金

別院門徒
ご崇敬内門徒
(他宗門徒 念仏宗徒に限る)

一体 **七万円以上** 一体 **十万円以上**

*申込みについては事前に別院事務所までお問い合わせ下さい。
*納骨時の儀式執行は別院が執行します。

●詳細は茨木別院事務所まで

☎ **〇七二一六二二一九〇三**

敬 弔

ご生前のご遺徳を偲び、謹んで哀悼の意を表します。(敬称略)

記

法名 明心院釋義道

俗名 江崎 義治

八十三歳

法名 美明院釋尼妙光

俗名 内田 富美代

七十九歳

法名 釋尼寶重

俗名 篤本 三重子

八十五歳

法名 釋尼春照

俗名 萩原 タツ子

六十九歳

法名 釋弘信

俗名 児玉 正弘

六十歳

法名 釋盛薫

俗名 大塚 薫

九十二歳

法名 美明院釋尼信久

俗名 奥村 久枝

九十六歳

法名 莊光院釋普照

俗名 嶋吉 照光

八十六歳

法名 釋尼明達

俗名 池上 タツノ

九十三歳

株式会社 花 廣

— 生花・供花・けいこ花 —

茨木市大手町 一・二・八

☎(〇七二)六二二・二四〇二

編集後記

内閣総理大臣より新型コロナウイルス感染症拡大防止のための緊急事態宣言がなされました。当たり前に思っていた事が当たり前でなかった事を痛感させられます。今の自分に何ができるのか考えるご縁を頂きました。

岡崎 康祐

「不要不急の外出を自粛」と国・自治体から要請が出ております。感染「したくない」から「うつさない」、「私を守りたい」から「あなたを守りたい」。立ち位置を変えれば行動も変わるのではないのでしょうか。

墨林 尚顕

お寺に限らず様々な諸行事が自粛で中止となっています。地震や台風とこのところ大変な出来事が続いており、時期がくれば自然と行事が行えることのありがたさを改めて考えさせられます。

竹内 明人